

特集 ソーシャルジャスティス

誰のための／何のための正義か？

1 ソーシャルジャスティスを考える

- 397 誰のための正義／何のための正義か？
——臨床心理学におけるソーシャルジャスティスを考える ● 齋藤 梓

2 〈声〉を届けるには？——心理の視点を社会へ

- 403 討議① | 専門知の共鳴^{エコー}——ジャーナリストとセラピストの対話
● 河原理子・齋藤 梓
- 411 誰のための権利か？——子どもアドボカシーと子どもの権利擁護機関の構造的役割 ● 谷口由希子
- 416 心理職はすでに社会を変えている——門の中に入っていると思えない人のソーシャルアクション「入門」 ● 富永京子
- 420 社会運動と臨床の連続性——アクティビズムと個別性のあいだで
● 梨谷美帆

3 正義はひとつではない

- 425 討議② | 法と心のシンクロニシティ——法律家とセラピストの世界線
● 山崎勇人・鶴田信子
- 433 家族の葛藤のなかで子どもをどう尊重するか？
——「こどもまんなか」の実装に向けて私たちがができること ● 西脇喜恵子
- 438 藪の中の〈正義〉
——加害者臨床においてセラピストはどこに立脚するのか ● 西井 開
- 443 ハラスメント相談におけるソーシャルジャスティス
——心理職による権利・尊厳・組織へのアプローチ ● 長嶋あけみ
- 448 「道徳のコミュニティ」による回復の可能性
——ジェンダーの暴力としてのDVや性暴力被害 ● 周藤由美子
- 453 いじめ重大事態調査における心理職の葛藤
——「鬼退治」の論理を超えて ● 奥井智一郎
- 458 共にいる場所を、いまここに——ユースワーク ● 阿比留久美

4 公平＋公正な援助実践のために——制度の正しい使用法

- 463 公認心理師が関わる診療報酬とソーシャルジャスティス
● 伊藤正哉・吉橋実里・今村扶美
- 470 心理職として制度に働きかける ● 蔵岡智子
- 475 スタートラインを整備する——合理的配慮と環境の整備 ● 佐々木銀河
- 479 子どもが「生きていくこと」を擁護し、支援する ● 井上直子

◎投稿

【原著論文】

- 487 クライアント体験によるセラピー実践に対する価値生成——臨床家自身のセラピー経験についてのインタビュー ● 加藤碧子

【展望・レビュー論文】

- 497 ミソフォニア研究の動向と本邦における今後の課題
● 榎本理沙・菅原大地

◎連載

スクールカウンセラーのはじめかた

- 507 第8回「いじめについて考える」
● 上田勝久

◎リレー連載

臨床心理学・最新研究レポート
シーズン3

- 514 第59回「マインドセットのプロセスモデル——能力に対する信念の動的・社会的概念化」
● 竹島克典

主題と変奏

- 519 第78回「世界の内と外のあいだで」
● 依田那美紀

◎追悼

- 520 鶴光代先生を偲んで ● 田中新正

◎書評

- 521 富樫公一 著『分断の中の治療者——当事者性と倫理的転回』
● 評者：中村曜子
- 522 ピーター・A・ラヴィーン＋マギー・フィリップス 著『痛みからの解放——トラウマによる慢性痛を癒す内なる力との出会い』
● 評者：水島 栄
- 523 末木 新 著『シン・自殺論——誰も自殺に追い込まれない社会の創り方』 ● 評者：松田慎之介
- 524 松隈信一郎 著『こころの庭を育てる ポジティブ心理学——支援と育成の現場で使える実践ガイド』
● 評者：菅原大地
- 525 カレン・グリストロップ 著／ピア・オルセン 絵『そのこと、子どもたちとちゃんと話そう——こころの病気と家族の気持ち』 ● 評者：佐藤さやか

485 次号予告

- 505 実践研究論文の投稿のお誘い

527 投稿規定

528 編集後記

性暴力被害と支援のQ & A

子どもとかかわる人のために

[著] 岡本かおり 齋藤 梓

A5判／並製／196頁／定価3,300円

本書では、民間の支援団体で被害者支援に取り組み、大学で性犯罪・性暴力の被害者に関する調査研究を行ってきた二人の心理学者がロールプレイを実施。7つの架空事例を逐語録形式で収載した。各部の末尾にはQ&A形式の解説を掲載し、初学者にも分かりやすく、実際の現場でも役立つ内容となっている。性暴力の被害に遭った子どもや、過去に性被害を受けた人と、最初に向き合う人のための入門書。

性暴力被害
と支援の
Q & A

子どもと
かわる人のために

岡本かおり・齋藤 梓

三

性暴力被害の心理支援

[編著] 齋藤 梓 岡本かおり

A5判／並製／248頁／定価3,520円

心理臨床の現場で、性暴力の被害に遭遇した方の支援を行う場合に、まず知っておくべき基礎的な知識や、心理支援の基本について記す。第Ⅰ部では性暴力とは何か、性暴力や性犯罪の現場で何が起きているのか、二次的被害や心理教育、リラクセーションなど、被害者の心理にスポットを当てて紹介し、第Ⅱ部では6つの架空事例を通して具体的に支援を解説。支援の実際がイメージできるよう、事件概要・司法手続き・心理支援の流れが詳細に書かれている。

性暴力被害
の
心理支援

齋藤 梓・岡本かおり

三

性暴力被害の実際

被害はどのように起き、どう回復するのか

[編著] 齋藤 梓 大竹裕子

四六判／並製／228頁／定価3,080円

「望まない性交」を経験した当事者の「語り」を、同意のない性交が起こるプロセス、同意のない性交が被害当事者の人生に及ぼす影響、回復への道のりといった観点から分析した一連の調査結果。「奇襲型」「飲酒・薬物使用を伴う型」「性虐待型」「エントラップ（罠にはめる）型」の4つのプロセスを詳述し、「被害当事者にとって、なぜ被害を認識したり相談したりすることが難しいのか」を解説する。

性暴力被害
の
実際

被害はどのように起き、どう回復するのか

齋藤 梓・大竹裕子

三

ジェンダーにセンシティブでありたい心理臨床家のために

[編著] 齋藤 梓 坂梨 唯 梨谷美帆 西井 開 日野 映 向井理菜

A5判／並製／240頁／定価3,740円

臨床心理士・公認心理師をはじめとする対人援助専門職家に向けて、ジェンダーにセンシティブな臨床とはいかなるものかを考えようと試みる。女性支援および性的マイノリティ支援を牽引してきた村本邦子氏と葛西真記子氏へのインタビューを皮切りに、日本の心理臨床界・心理学におけるジェンダー秩序の史的考察から、臨床現場におけるジェンダーバイアスやマイクロアグレッションがもたらす負の側面の批判的検証、性暴力、DV、性別違和など具体的な臨床実践においてジェンダー視点を活かす可能性を考察する。

ジェンダーに
センシティブでありたい
心理臨床家のために

著者 村・坂梨 唯・梨谷美帆・西井 開・日野 映・向井理菜

三